

Summer monitoring program for young scientists in Kiso River

(若手研究者のための夏季観測プログラム in 木曾川)

奥田昇 (京大大学生態学研究センター)

開催日：2012年8月17日(金)～8月24日(金)

開催地：京都大学理学部附属木曾生物学研究所 (長野県木曾町)

講師：奥田昇・中野伸一・陀安一郎 (京大大学生態学研究センター)

TA：村上綾 (京大大学生態学研究センター)

参加者：京都大学理学部生 3名、INTI 国際大学ペナン校 (マレーシア) ラボインストラクター1名、海洋環境・資源研究所海洋生物多様性保全部門 (ベトナム) 研究員1名、竹田高等学校環境科学 (韓国) 教師1名、計 10名

当センターの共同利用・共同研究拠点事業による国際ワークショップが、DIWPA、JaLTER、京都大学理学部の共催により実施されました。本ワークショップは、地球規模の気候変動、森林伐採、河川改修などの人為攪乱に伴う森林溪流生態系の環境変化が河川生物群集に及ぼす影響を調査する長期生態系観測およびデータベース作成・公開を目的としたプログラムです。特に、若手研究者の主体的参加を通じて、大規模長期研究プロジェクトを牽引する次世代のリーダーを育成することを目指しています。

今回が初めての試みとなる国際ワークショップは、アジアの若手研究者の人材育成を支援する DIWPA とのコラボにより実現しました。多数の応募者の中からマレーシアとベトナムの研究者それぞれ 1名を選抜し、招へいしました。さらに、共同研究事業による公募を通じて、韓国の高校教師 1名もオブザーバー参加しました。韓国の河川環境教育に本ワークショップのノウハウを導入したいとのことでした。大学カリキュラムとして参加した学部生たちは、事前告知をしたとはいえ、講義のみならず起床から就寝まで英語漬けの生活に最初は戸惑いを感じているようでした。初日こそ口数も少なく遠慮がちでしたが、打ち解けるのにそう時間は要りませんでした。海外の参加者にとっては、異国での集団生活というだけでも相当なストレスですが、賄いをしていただいた管理人さんの家庭的な手料理が和みと癒しの効果をもたらしたようです。

プログラムの前半では、河川の標準的な調査手法ならびに河川生態学の基礎を学び、観測調査からデータベース作成まで一連の作業に取り組みました。調査は、JaLTER サイトとして登録されている木曾川支流河川の黒川および赤塩沢で実施しました。河川の物理・化学環境計測に始まり、礫付着藻類や底生無脊椎動物の定量採集、そして、実験室ではクロフィル分析や底生動物の選別・同定作業をおこないました (写真 1)。プログラム後半は、参加者各自が計画した自由研究を実施しました。正味 1週間弱の日程で、底生動物の採集・

同定から個人研究までこなすという過酷なスケジュールに驚嘆の悲鳴が挙がりました。“I can't do it!”と悲観的だった参加者たちも、夜を徹して作業に取り組み、見事に自由研究を完遂することができました。限られた資源（時間、お金、人など）で最大のパフォーマンスを示すことは、これからの研究者に問われる資質の1つです。“If you try to do, it can be achieved.”（為せば成る）ことを学んだのが本ワークショップの一番の収穫だったかもしれません。



写真1 野外での観測調査（左）および実験室内での底生動物の選別作業（右）

また、本ワークショップでは酒蔵見学や蕎麦の食べ歩きツアーも行いました。中山道の宿場街として栄えた木曾福島は酒処、蕎麦処として有名です。清らかな水と冷涼な気候、そして、その自然環境に育まれた生物の多様性が当地の豊かな食文化の源泉と言えましょう。生物多様性によってもたらされる生態系サービスを実感することが、本ワークショップの隠れた目的であることは言うまでもありません。

冒頭で述べましたように、本事業は継続することに意味があるプログラムです。今後とも、若手研究者の積極的な参加を促すとともに、生態学会の皆さんのご理解とご支援を賜れば幸甚です。



写真2 ワークショップの参加者

本ワークショップによる観測調査結果および個人研究レポートは、下記の URL より閲覧可能です。調査データおよび定量採集生物標本は、共同利用申請を通じて、その研究目的および意義が適当と判断された場合に利用することが可能です。

<観測結果>

<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~nokuda/JaLTER/Kiso.htm>

<個人研究レポート>

<http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~nokuda/research&education/education/limnolpracticeIIH24.htm>